# かわばた荘に お寿司屋さん 小田巻やさん がやって来た！

グループホームかわばた荘開設以来初めてのボランティアで、近所の寿司屋「鮨たくみ」さんと川辺町にお店がある「浅五郎の小田巻や鈴木酒店」さんがそれぞれ振る舞ってくださいました。

## お腹いっぱいでもう食べられない方続出！ 鮨たくみさん

鮨たくみさんは入居者の方にも人気で、お誕生日にお店へ食事に出かけられる方もあります。以前にサンシャイン美濃白川でごちそうしてくださったことがある店主の高羽さんから提案があり、かわばた荘でも出張お寿司屋さんが実現しました。

鮨たくみさんが来たこの日はみなさんいつも以上にそわそわされて落ち着かない様子でした。最初は目の前で握られるお寿司に緊張して遠慮がちの様子でしたが、あまりのおいしさにぺろりとたいらげてお代わりを注文される方が続出。この日は特別ゲストとして二人のちびっこ従業員がお手伝いに参加して、みなさんから注文をとったり寿司を運んだりと奮闘してくれました。

▲思わず箸がすすみます

「こんな目の前で握ってもらえて幸せやなあ」「本当はもう少し食べたいけど食べすぎやよねえ」と終始楽しい昼食となりました。

▲ごちそうに笑顔いっぱいです

## 今も昔も変わらず愛される おやつ小田巻の焼きたてを 堪能！ 浅五郎の小田巻や 鈴木酒店さん

鈴木酒店さんは店内で小田巻を焼いておられ、いつも売り切れ必至の小田巻屋さんです。

きっかけは「小田巻を施設内で楽しんでみませんか」という一枚の葉書でした。それによると、近隣の施設等に出張して焼きたての小田巻を提供されているとの事。目の前で焼いてもらった小田巻をおやつにしたら昔を懐かしんで楽しい時間になるのではと思いお越しいただくことにしました。

当日は天気が良く、かわばた荘の駐車場に屋台を設置しておやつタイムを楽しみました。

目の前で焼かれていく小田巻を見て「ええなあ。昔は家でも焼いとったなあ」と思い出話をしながら待つこと数分。ふわりと甘い香りがしてきてたっぷりのあんこが入った小田巻が完成しました。

最初は遠慮して小田巻に手をつけなかった入居者のみなさんも「焼きたてをどうぞ」と言われると「いいんかね」「おーいしい。まったくおいしいわ」とあっという間に食べてしまわれました。

▲焼きたてに舌つづみ

これからもかわばた荘では入居者のみなさんに楽しんでいただけるよう、新しい取り組みをしていきたいです。

# 茶摘みに出掛けました

車に乗ると「どこへ行くの？」と弾んだ声が聞こえます。「お茶摘みに行くよ」と答えると、すぐに「夏も近づく八十八夜～」と歌が出ました。みなさんで一緒に歌いながら広島地区まで向かいました。地域の方のご厚意でたくさんお茶を摘むことができました。ご夫婦で参加された方もあり、仲睦まじい様子が見られました。

▼青空の下で茶摘み

摘んだお茶は施設に持ち帰り、ホットプレートで炒って手揉みを行いました。さすがは昔取った杵柄。みなさん慣れた手つきで次々と揉みあげていかれます。陰干しをしたお茶は湯船に入れ、お茶風呂を楽しみました。浴室には新茶の良い香りが漂っていました。

▲茶揉みで話がはずみます